

I 調査の趣旨

中央教育審議会答申「特別支援教育を推進するための制度の在り方について」や発達障害者支援法では、発達障害への様々な支援が行われることがうたわれている。

しかしながら、現状は、軽度発達障害児の実態やそのリスクのある乳幼児の発見、その後の支援が系統的に確立しているとは言い難い。特別支援教育を深化させていくためにも、軽度発達障害児の乳幼児期における実態を把握し、その支援システムを構築していくことは重要な課題である。

そこで、本研究では、乳幼児期における軽度発達障害児の早期発見や支援システムがどのようなになっているのかについて、以下の調査を行う。

- ① 乳幼児健診における軽度発達障害やそのリスクのある乳幼児の発見・支援の実態
- ② 幼稚園における軽度発達障害やそのリスクのある幼児の発見・支援の実態
- ③ 保育所における軽度発達障害やそのリスクのある乳幼児の発見・支援の実態

これらの実態を調査することで、軽度発達障害者に対する一貫した支援体制、特に乳幼児期を中心にした支援体制を構築するための基礎資料を得ることを目的とする。